



『ターラの夢見た家族生活』
3巻まとめて日本語版に
なるんだって？

4/11 まで
クラファン中
参加してね！



元・フランス在宅教育支援エドゥケーターが描く

『ターラの夢見た家族生活』 翻訳出版クラウドファンディング

子育て経験を親子双方にとって良いものにする
フランスの在宅教育支援を支える「エドゥケーター」と
子どものリアルを伝える人気マンガ



「それよりもマニキュアしない？ 私あんなくらいのとき
化粧大好きだったわよ」
「いや、私好きじゃないの。それより新学期手当が入金
されてたでしょ？」
「入ってたわよ！ ちょうど、そのお金で美容院行ってワ
ンピース買ってダンスパーティー行こうと思ってたの、私た
ち女友達みたいだね！」
「ママ！」

『ターラの夢見た家族生活』は、精神疾患を抱えるお母さん、8歳
の女の子ターラと在宅教育支援(1)エドゥケーター(2)について
描いた物語。教育関係者や保育、子どもに接する職業に就く人た
ちの間でセツシ、現在では中高生のファンも多い。「親も大変な
んだな」「でもこうやってリカバリーしていく方法があるよね」「信
頼できる大人との出会いは子どもにとって大きいよね」と幅広く
楽しまれている。

実際、家庭どのような支援がされているのか？ 土木作業員、
高校歴史教師をしたのちに、17年間家族を支援したエドゥケー
ターが描く、フランスの子育て支援者の動き、言葉遣い、距離感、
ねじれた環境でも逞しく育つ子どもたちの姿が描かれている。

※1 在宅教育支援: 心配な状況で、支援が必要であると判断された子ども
に対し、月5時間～毎日1時間エドゥケーターと一緒に過ごし、教育的支援を
おこなう。毎年未成年人口の約1%が利用。平均約1年半で家庭内の状況が
改善し終了して、保健省は状況が悪化し施設措置になること比べたら
9000分の1のコストで済むと報告している。

※2 エドゥケーター: フランスの国家資格で、児童発達分野で中心的役割
を担う資格。1年目に児童保護、2年目に障害、3年目に社会的精神障害を
抱えた成人の自立支援を学び、看護師のように機関や機関に問わずエド
ューカーとしてキャリアを積む。若者たちはよく「彼は私のエドューカだよ」と
いう言い方をして、運がいいと親戚のおじさんみたい、社会的親ともいえるエ
ドゥケーターに出会えることも。

詳しくは
こちらから



<https://greenfunding.jp/thousandsofbooks/projects/6908>

子育て経験をよりよい良いものにするために

フランスの施設で暮らす子どもたちにも通い彼らの施設に来るまでの暮
らし、家族、学校、地域、福祉について話を聞いていたときに子どもたちに教
えてもらったのが「在宅教育支援」。制度とサポートがあれば「親ガチャ」は減
らせる。実際に「国ガチャ」が起きている。日本で生まれる子どもが幸せな
大人になれるようにできることは全部したい。その気持ちの1つがこの漫画
の日本への紹介です。

発起人: 安登明子(あひあき)

日本学術振興会特別研究員。1981年鹿児島生まれ。2005年一橋大学社会学部卒。2018年フランス国立社会科学高等研究院健康社会政策学修士。2019年フランス国立社会科学高等研究院社会学修士。2007年「裸女子」-北海道家学校 1/4号「ペンネー島津あき」金曜日社。2022年「フランスにおける子ども家庭福祉と文化政策」「ア健康で文化的な生活」をすべての人に」河合亮義、矢岡政好、唐澤廣義監修。自身体験研究社

